

中山間地における夏秋ナスの生産安定技術の確立

佐藤和幸・佐藤 如¹⁾・安部貞昭²⁾

(大分県農業技術センター・¹⁾ 大分地方振興局農業改良普及センター・²⁾ 宇佐両院地方振興局農業改良普及センター)

Kazuyuki SATO, Hitosi SATO and Sadaaki ABE:
Methods of Cultivation on Summer to Autumn Harvesting Eggplant in Mountainous Region

大分県における夏秋ナスは主に中山間地で露地栽培されている。その作型は5月上旬に定植し、6月上旬から10月下旬まで収穫するのが一般的であるが、増収を図るために初期収量の増加が求められている。そこで、ハウス等の利用による栽培様式とトンネル被覆の有無が収穫時期の前進と収量に及ぼす影響を検討した。

1. 材料および方法

台木‘アシスト’に穂木‘筑陽’を接ぎ木したもの(穂木1月12日, 台木1月20日播種, 接ぎ木3月13日)を, 間口6.0mのハウス, 間口1.8mのミニハウス, 露地に2000年4月17日に定植し, それぞれに有孔フィルム(開孔率6%)トンネル被覆の有無を設けた。トンネル被覆は5月8日に, ハウスおよびミニハウスの天井のビニルは7月24日に除去した。また, 慣行区は露地のトンネルなしとし, 5月12日に定植(穂木2月24日, 台木3月2日播種, 接ぎ木4月10日)を行った。なお, 仕立て法はV字4本仕立てとした。

2. 結果および考察

1) 合計収量はミニハウスのトンネル有り区が最も多収で, 次いでミニハウスのトンネルなし区, 露地のトンネル有り区の順であった。ハウスではトンネルの有無に関わらず少なかった。これは6月下旬から7月中旬にかけて, ハウス内にマメハモグリバエおよびオンシツコナジラミが多発生したことにより草勢が低下したことが原因と思われる。しかし, 5~6月の初期収量はハウスの両区が他の試験区より多収であった。また, 各試験区とも5月定植の慣行区と比較して収穫開始期が1ヶ月早くなり, 初期収量の差が収量増となった。月別収量は露地に比べてハウス, ミニハウスが5~6月に多収で, いずれの栽培様式においてもトンネル有りがなしより6~8月に多収であった(第1表)。

2) A品(県経済連出荷区分による)収量の旬別推移をみると, ハウスの両区を除いた他の区はほぼ同様に推移したが, 収穫最盛期である7~8月はミニハウスの両区がA品収量が多かった(第1図)。

3) 収穫初期の平均果重は, ミニハウスが最も重く, 次いでハウス, 露地の順で, いずれの栽培様式でもトン

ネルの有無による差は認められなかった。ハウスおよびミニハウスのビニルを除去した8月以降は各試験区とも平均果重の差はみられなくなった(第2表)。収穫終了時の草姿は, ハウス, ミニハウスおよび露地の栽培様式の差はなかったが, 主茎径と主枝径はいずれもトンネル有りがなしに比べて太かった(第3表)。

以上の結果, 夏秋ナス栽培で収量の増加と収穫時期の前進を図るためには, ミニハウスで栽培し, さらに定植時からトンネル被覆を行うことが有効である。

第1表 栽培様式およびトンネル被覆の有無が収量に及ぼす影響 (kg/a)

栽培様式	トンネル	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
ハウス	有り	28	243	448	687	318	208	25	1957
	なし	28	221	423	638	334	230	48	1923
ミニハウス	有り	10	218	599	599	448	233	55	2161
	なし	18	211	587	552	406	208	33	2015
露地	有り	12	178	530	572	394	282	44	2012
	なし	19	141	513	507	409	245	44	1878
慣行	なし	0	31	403	451	414	291	36	1626

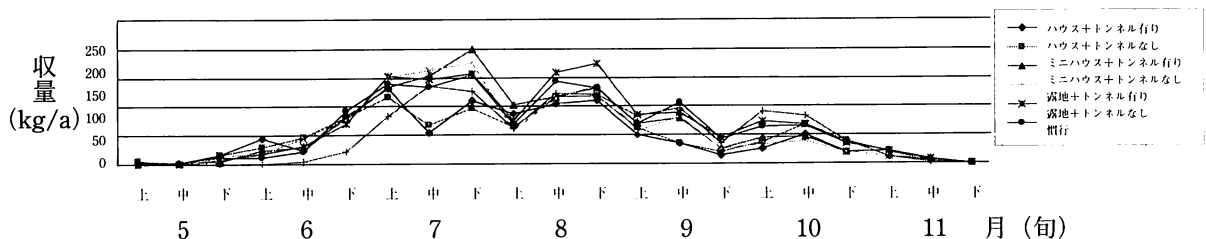
第2表 栽培様式およびトンネル被覆の有無が平均果重に及ぼす影響 (g/果)

栽培様式	トンネル	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	平均
ハウス	有り	146	159	164	147	135	128	123	143
	なし	136	161	159	145	136	129	119	141
ミニハウス	有り	145	168	165	152	136	127	115	144
	なし	145	166	158	148	134	126	111	141
露地	有り	138	151	158	149	137	125	110	138
	なし	115	145	157	146	137	134	115	135
慣行	なし	0	148	160	148	140	128	119	120

第3表 収穫終了時の草姿

栽培様式	トンネル	主 茎 ^{注)}		主 枝				
		長さ	径	長さ	節数	枝径	枝径	枝径
		(cm)	(mm)	(cm)	(節)	(mm)	(mm)	(mm)
ハウス	有り	21	19.4	198	17	12.7	11.6	9.3
	なし	25	18.7	196	17	12.5	11.2	9.0
ミニハウス	有り	23	18.5	188	19	12.9	11.5	9.0
	なし	24	18.2	180	18	12.6	11.2	8.1
露地	有り	22	18.5	190	18	11.9	10.7	8.4
	なし	21	17.3	192	19	11.6	10.4	8.2
慣行	なし	20	17.3	184	17	11.2	9.4	7.0

注) 主茎の長さは地際~第1側枝分岐までの長さ



第1図 栽培様式およびトンネル被覆の有無がA品収量に及ぼす影響